

事業の進化と価値創造の歴史

創業以来培ってきたゴム・樹脂分野における独自の技術力を活かしたモノづくりを通じて、時代のニーズに応え、世界に新しい価値を提供しています。

設立～1970年代

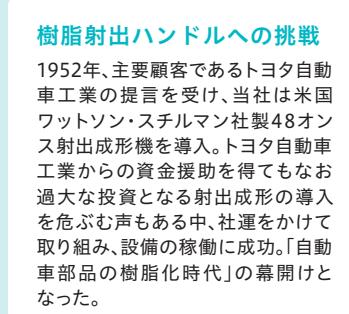
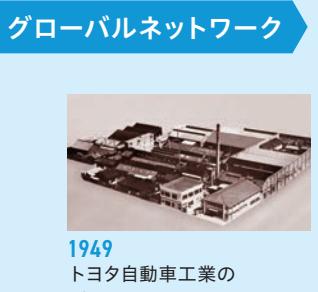
豊田喜一郎氏のDNAを継承しゴム・樹脂部品を開発

1930年代後半、豊田自動織機製作所の自動車部内に、ゴム部品の重要性を感じていた豊田喜一郎氏がゴム研究部門を設置しました。それが豊田合成（以下当社）のルーツとなりました。喜一郎氏は後にトヨタ自動車を創業します。喜一郎氏の研究への情熱は、1949年に設立された名古屋ゴム株式会社へと引き継がれました。

1950年代、名古屋ゴムは自動車用ゴム部品の開発・生産に力を注ぎ、自動車用の油圧ブレーキホース製造で国内初のJIS認定工場となりました。また従来は硬質ゴム製であったハ

ンドルの樹脂化に挑戦。1954年には射出成形加工による樹脂製ハンドルがFA型トラックで採用となり、続いてトヨペット・クラウンにも同工法による樹脂製ハンドルが搭載されました。

1960年代以降、国内自動車産業の発展とともに、名古屋ゴムは事業を拡大。1967年には射出成形による樹脂部品を生産する稻沢工場を新設、その後も尾張エリアを中心に生産拠点を拡充。1973年には現在の豊田合成株式会社に社名変更をしました。

1949	1960	1970	1980
ゴム・樹脂分野の知見			
 1950 ウェザーストリップ 1953 ブレーキホース	 1954 樹脂射出ハンドル	 1961 ピストンカップ	 1974 インストルメントパネル
新規事業開発の経験			
 豊田自動織機製作所 ゴム研究部門	樹脂射出ハンドルへの挑戦  1952年、主要顧客であるトヨタ自動車工業の提言を受け、当社は米国ワットソン・スチルマン社製48オンス射出成形機を導入。トヨタ自動車工業からの資金援助を得てもなお過大な投資となる射出成形の導入を危ぶむ声もある中、社運をかけて取り組み、設備の稼働に成功。「自動車部品の樹脂化時代」の幕開けとなった。	 1977 等速ジョイントブーツ	 1982 樹脂フューエルフィラーキャップ
グローバルネットワーク			
 1949 トヨタ自動車工業のゴム部門を母体に「名古屋ゴム(株)」設立 1957 春日工場稼働	 1967 稲沢工場稼働 1973 「豊田合成(株)」に改称 1976 森町工場稼働 1977 米国事務所設立(イリノイ州) 1980 本社を現所在地(愛知県清須市)に移転 1982 尾西工場稼働	 1982 尾西工場稼働	

1980年代～2000年代

研究・開発に尽力しグローバル企業へと成長

トヨタグループの一員として、当社が開発・生産する自動車用のゴム・樹脂部品は1980年代以降さらに多分野へと広がりました。

当社は高分子メーカーとして開発型の企業を目指し、1995年には北島技術センター、2009年には美和技術センターを設立し、開発力を強化してきました。

また、異業種分野にも目を向け、自動車部品事業で培われ

た薄膜形成技術に基づき、1986年からは開発が困難とされていた青色LEDの研究に挑戦し、1995年に量産化を達成しました。

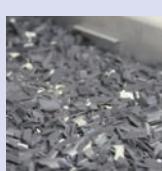
一方、1980年代末まで海外市場では台湾、北米の4社体制でしたが1990年代に海外進出を加速。北米、アジアに続き、豪州、欧州、中南米、アフリカにも展開し、今では海外62社へと拡大しグローバル企業へと成長しています。

1990

2000



1989
運転席用エアバッグ



1997
ゴムリサイクル技術



1998
カーテンエアバッグ



2003
ミリ波レーダー対応
エンブレム



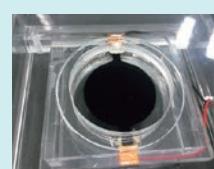
2008
樹脂フューエルフィラーパイプ

エアバッグ開発への挑戦

国内エアバッグでトップシェアを誇る豊田合成。ハンドルを製造している流れでエアバッグを手掛けるようになつた、と思われるがちだが、実際にはトヨタ自動車初のエアバッグという新たな商標をめぐり、「いち早くエアバッグを開発すべきだ！」という危機感から、熾烈な開発競争に果敢にチャレンジした結果である。

世界初！青色LEDの開発

優れた省エネ性能により環境にやさしい光源として応用分野が広がるLED。LED製品の実現を可能にしたのが、1990年代の青色LEDの実用化である。1986年、豊田合成は名古屋大学工学部の赤崎勇教授の指導と豊田中央研究所の協力を受けて、窒化ガリウム(GaN)をベースとした青色LEDの開発に着手、1991年に成功認定を受けた。不可能とされた青色LEDの開発。世界初となる挑戦は不安と苦労の連続だった。



2007
e-Rubberの研究開始



1989
TGミズーリ(株)設立



1995
北島技術センター設立



1999
豊田合成ノースアメリカ(株)設立



2000
豊田合成ヨーロッパ(株)
設立



2001
豊田合成アジア(株)設立



2006
豊田合成(上海)
管理(有)設立



2008
豊田合成ミンダインディア(株)
設立



2009
美和技術センター設立

事業の進化と価値創造の歴史 と 私たちの競争優位性

2010年代～未来

安心・安全、快適、脱炭素を軸に未来へ貢献

2010年代になると、地球温暖化対策、持続可能な社会の実現など、企業が抱える新たな課題も生まれました。自動車市場ではBEV(電気自動車)など石油燃料に頼らないクルマが将来の主役になると予想され、大きな変革を迫られています。

当社では高分子技術を活用し、FCEV(燃料電池自動車)用の高圧水素タンクを開発。2020年に量産が始まったトヨタ自動車の2代目MIRAIにはトヨタ自動車と共同開発した同タンクが採用されています。またBEV化への対応として、車両構造の変化に対応したエアバッグ・シートベルトの最適提案によ

り、交通死亡事故の低減に貢献するほか、高分子の技術でクルマのデザインやつくりを刷新し、新しいモビリティを実現していきます。さらに、高分子材料の知見を活かして高機能材料の開発やリサイクルを推進し、自社内だけでなく、開発した材料・技術の社外販売など事業化を通じて、脱炭素・循環型社会実現への貢献を目指します。

当社は今後も高分子技術を活用し、「安心・安全」「快適」「脱炭素」の3領域を軸に社会に価値を提供し続けていきます。

2010

2020

ゴム・樹脂分野の知見



2010
軽量オープニングトリム
ウェザーストリップ



2017
大型ラジエーターグリル



2019
樹脂ターボダクト／
バッテリーケース



2020
超大型スピンドル
グリル



高圧水素タンク



2021
斜突対応の運転席エアバッグ／
歩行者保護エアバッグ



2022
CNF強化プラスチック



2023
小型ワイヤレス充電ホルダ



2023
発光機能つきミリ波エンブレム

新規事業開発の経験



2010
GaNパワー半導体の
研究開始



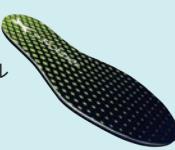
2019
e-Rubberを用いた
心臓手術シミュレーター
「Super BEAT」を
EBM社と開発



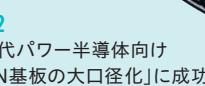
2020
UV-C(深紫外線)LEDを用いた
UV-C空間除菌装置を販売開始
新型コロナウイルス不活化に
対するUV-C(深紫外線)LEDの
高い有効性を確認



2021
UV-C表面
除菌装置



2021
スマートインソール



2022
次世代パワー半導体向け
「GaN基板の大口径化」に成功

グローバルネットワーク

2013
豊田合成東日本(株)設立



2013
GDBRインダストリア
コメリシオ(有)設立



2014
豊田合成
イラブアトメキシコ(株)設立



2018
(株)豊田合成
インドネシア設立



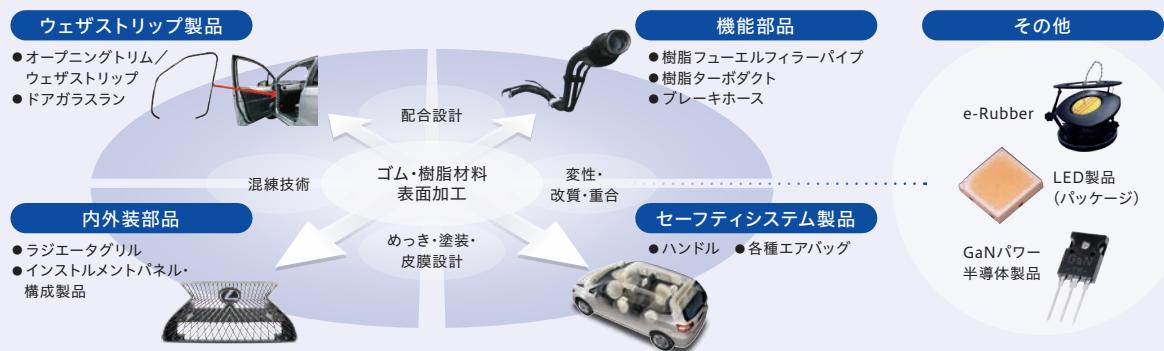
2020
いなべ工場稼働

私たちの競争優位性

ゴム・樹脂分野の知見

製品に優位性をもたらす「材料」「工法技術」「金型技術」

当社の源流であるトヨタ自動車創業者の豊田喜一郎氏が設立したゴム研究部門から脈々と続く基礎研究の基盤を活かして、お客様や時代のニーズに先回りした材料・工法を創造し、競争優位性を高めています。



新規事業開発の経験

革新的な製品

当社の社是である「限りない創造 社会への奉仕」のもと、約70年の歴史の中で安全・環境など時代のニーズをいち早く捉え製品開発に成功してきた幾つもの経験が、TG Spiritに掲げている「チャレンジ」精神の基盤となっています。先人から受け継がれてきたマインドを大切に、社会課題への挑戦をおして企業のさらなる進化を続けていきます。



グローバルネットワーク

16カ国/地域・グループ62社による ネットワークを活かしたバリューチェーン

世界戦略車(グローバルカー)の参入をきっかけに、約20年で40社以上のグループ会社を設立。グローバルネットワークを活かし、お客様のニーズや政情に鑑みた最適な生産体制で確かな技術と品質をタイマーにお届けします。

